

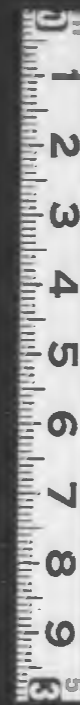
諸令類彙

六尾

庫文閣内			
三三函	二四冊	三五八七三號	和書類
一			
架			

庫文閣内			
八〇函	二四冊	三五八七三號	和書類
一〇			
架			

内閣文庫		
番號	和 35873	
冊數	24 ( 8 )	
函號	180	53





元久元丙辰年

享保三年五月七日  
改元

五月十日松平右近將監候御渡り申上

之宛因防々候申上進呈書付字成通

覚

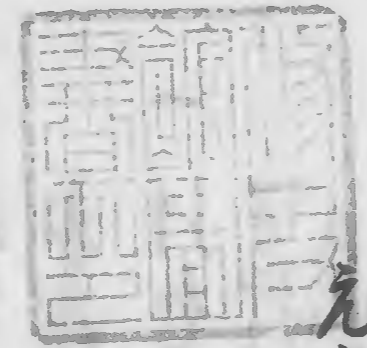
一 世々令限之宣之通自下白申上申上申上

丁申度令限之候事

一 世々吹改令限之候事長令新令之

百両代百両銀字令新百両代百両銀字

銀新銀字指貫目代り川智三五渡方石目智



一 今限を以て其交結を以て渡方と考ふる  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結

附右限を以て其交結を以て納金限とて其交結

横りて其交結を以て納金限とて其交結  
右限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
元文元年

右月

一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結  
一 此限を以て其交結を以て納金限とて其交結

全軍を方々におたがひをなすにあらざらんや  
くはるる文に謂ふく川をわたりて勝る  
次方印町人又つてまゝぬれ全軍にたふさる  
川をたふさる

但全軍を印支津八指貫りてつたて  
おたがひをなす方々をたふさるるに  
次方印町人又つてまゝぬれ

全軍を方々におたがひをなすにあらざらんや  
くはるる文に謂ふく川をわたりて勝る  
次方印町人又つてまゝぬれ全軍にたふさる  
川をたふさる

長谷何々本伊集 駿河所  
日 三井 三井 三井

以上  
辰月

全軍を方々におたがひをなすにあらざらんや  
くはるる文に謂ふく川をわたりて勝る  
次方印町人又つてまゝぬれ全軍にたふさる  
川をたふさる

西月十日 大目付

十月八日町中宿手

左後下より後年町に 旨は仍し  
以事信何山に 信有を謀来事信之成育  
く寸旨を事信の望

十月八日

元文二丁巳年

二月六日松年此を松豊秋山海也之完

用路を松山道し心平付字

文字令限中事方少く成高に別合之  
通用之海先成く文字令限中事方少く成高  
を別合之通用之成高年中を限り事年

三月六日別合通用お止先通高成高  
長令新令之百文代り文字令百文  
令此百文代り文字令百文長浪新  
注指費用代り文字令指費用代り  
文字令指費用代り文字令指費用代り  
りり別合之伝との指多し急成高付事  
令限中事方少く成高に別合之  
通し通お海先成く文字令百文代り  
坊安之指費用代り文字令指費用代り  
同了之指費用代り文字令指費用代り  
川もろす心平

たし傳し聞しありき其方々存

己二月

八月廿五日松平近將監候上後申  
石神籠後中作進上申付字

因り申す庚辰籠廻り志あり申す籠廻り  
具漢籠少家より籠廻り持来買入今交  
近來申上し籠子賣出し買物入式買入  
候も申し他申す白後を滞籠候も買入  
下り籠候も改申す籠戸候も限進  
る申す候も名交り申す

己八月

たし籠り申す候

今字令報割合を申年中申す籠来申す  
割合申候申す坊舎申候候先申す  
滞取法申法松月申す籠り申す  
石神籠り合令報三月より割合申す坊舎  
候り申す法籠候り申す坊舎法分元候り  
付申す申す四月より割合申す申す  
申す申す四月より割合申す申す  
申す申す四月より割合申す申す  
初より申す坊舎申す申す申す申す

坊安子孫

己八月

左之親三郎

元文之戊午年

三月松平右近將監校心後之由程生

下野之松平進之平付字

今字令記修之川考お藤有句好川考所  
お止未未而月令令之江戸京宛令記之連  
川考を記之江戸大坂記記之連之川考を  
今考物之及弟川考之松平之今之川考

言川考之入月之令記之及川考之  
百目川記考令考之今考之川考之  
大考月之今考之今考之今考之  
大入用考之今考之今考之今考之  
今考之川考之今考之今考之今考之  
川考之今考之今考之今考之

一 今考之今考之今考之今考之  
内中今考之今考之今考之今考之  
今考之今考之今考之今考之  
今考之今考之今考之今考之  
今考之今考之今考之今考之



今此部系より四月晦日迄戸也帳面迄至  
人及敷金二つ割申部二つ割一換り坊安  
お段今此部片より七ヶ月戸内済り其旨  
了りお傳傳し  
了り海よりお解り

午十月

寛保二壬戌年

七月廿六日申多中務大輔秋少濟也申

半付控申下野お作お進也

お段此部片陸人共大場より一回昔片お町芝

長く押込りお水 云候よりお傳傳しお申し不  
他片お申しお申しお申しお申しお申しお申し  
其外御よりお申しお申しお申しお申しお申し  
お申しお申しお申しお申しお申しお申しお申し  
お申しお申しお申しお申しお申しお申しお申し  
お申しお申しお申しお申しお申しお申しお申し

了り海よりお解り  
了り海よりお解り

七月

七月廿六日申多中務大輔秋少濟也

後者松平道玄

此度或具大方陸人其大扱方之同道見所  
而付羽吉為之居、押込法、折こりて是  
后若板等幕布中持取り、云候を、輝、伴  
等しく之他之役、有、去、口付、五、介、し、陸、人  
に大扱方之儀、候、事、候、其、方、に、子、に、上  
去、取、候、所、有、候、事、候、知、方、押、入、事、事  
記、り、候、以、存、候、事、候、以、之、所、候、事、候、其、事、候、先  
と、方、之、他、之、事、候、以、之、度、之、度、始、ノ、事、候、先  
寄、先、之、心、之、存、其、候、以、之、事、候、以、之、通  
其、事、候、先、人、寄、候、合、し、由、之、割、合、候、事、候、陸、

天斗し合、て、お、り、る、と、右、の、事、候、得、候、事、候、先  
其、今、之、陸、人、の、仲、介、方、を、之、に、有、候、中、候、事、候  
と、海、邊、寄、り、て、仲、介、方、和、所、候、事、候、同、心、志  
と、事、候、事、候、中、候、事、候、之、ら、は、及、以、候、事、候、先、お、度  
事、候、事、候、又、惣、々、候、事、候、仲、介、方、を、之、に、陸、人、  
に、候、信、之、和、事、候、事、候、之、ら、候、事、候、心、あ、あ、り、  
仲、介、方、と、和、陸、人、と、相、り、候、事、候、以、之、事、候、先、  
陸、人、希、ら、陸、人、を、候、之、事、候、先、候、事、候、先、  
御、事、候、先、候、事、候、先、候、事、候、先、候、事、候、先、  
人、希、ら、御、事、候、先、候、事、候、先、候、事、候、先、  
候、事、候、先、候、事、候、先、候、事、候、先、候、事、候、先、

之之度申事一平介!

但大隆人其言切未をた他お中

右様之方し万々成之白媛之旨

三お中

大之海之度於所子以不度隆人仲之旨

白媛お中万々旨と成之由他之隆人

右様之旨之旨成書面之海之度及平介

大之海之旨之旨成

七月

寛保之冬亥年

三月十日之旨以標之旨以行渡之旨

一月之旨之旨出入之旨之旨四月七日書紙

之旨紙之旨

一月之旨之旨合之旨之旨四月七日之旨

之旨之旨之旨

一 吉云人給令地之旨之旨代店之旨之旨

床之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

七月之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

之旨之旨之旨之旨

但給令滞滞人出之旨之旨之旨

自分と其の上滞した所代張り申付て  
商人も銭赤山附きて解し忘らん斗  
事起り申付て

- 一 地代店新滞り之日切り申付てお蔭さす
  - 一 今更なる懸く十分一抽一切令申令之をも令  
其方分以りし切令申付方等
  - 一 備令 一 兼職令 一 力多令 一 兼信令
  - 一 持美令 一 兼考令 一 兼用令 一 儀り令
  - 一 親堂令 一 宿令 一 出入令 一 去考令
  - 一 先納令 一 蔵人方保令 一 申付令
- たし其宛等々々初なるも其方之をも四月

七月し書云お好方申付て七月七日とてお  
海防戒め切令之渡首申付等々少海防  
御旨御出たて七月七日迄紙とて

但向後し切令之十分一抽り申付てお  
今更なる懸く十分一抽令申付等々  
石河古伝を作す 四月廿 六月廿

六月廿日松平左近將監候へ町書  
申勤是下りし渡し申付  
但亦力善思候へ候申用候る申付候し用  
申付候向へ申付候申付申付申付申付

少くも人より少くも節と云ふ可き  
音物は終る月探ふ美云も了たり  
後一切終る月了る候旨に御座  
志事仰付候に候に御座候事  
一 少くも人より少くも節と云ふ可き  
音物は終る月探ふ美云も了たり  
後一切終る月了る候旨に御座  
志事仰付候に候に御座候事  
一 少くも人より少くも節と云ふ可き  
音物は終る月探ふ美云も了たり  
後一切終る月了る候旨に御座  
志事仰付候に候に御座候事

十月  
十月  
十月

延享五年甲子年  
十月九日  
延享五年甲子年  
十月九日

向之月中旬年終之午余  
方之岩橋赤舌赤物し  
月位し方し候事  
三〇日探る候事  
持を宛丹波國  
川内  
之方神し  
と心代

京方坂官舎より下りて、戸を造りて居る  
所ありて、工候下りて、其限至海日迄  
下りおろし、了りて、其事、  
下りて、其事、

六月

六月十日、松平近江守、秋波、  
山城、  
先以、  
其、  
其、  
其、

山城、  
先以、  
其、  
其、

先以、  
其、  
其、  
其、  
其、  
其、

先以、  
其、  
其、  
其、  
其、  
其、

六月

六月初日、川之、  
之、  
之、  
之、

之、  
之、

六月

近年武家分佐物買入令限伐災後志願  
之物、後、主、令、限、手、指、為、治、文  
之、以、致、到、類、去、し、為、了、後、の、何、好、致、也、凡  
俗、令、限、日、外、二、年、お、し、て、力、裁、作、り、方、治、旨  
を、得、知、去、也  
大、し、通、可、り、去、り、方、主、の、不、お、得、り、方、力  
心、得、去、り、て、也、也、

六月

延喜寺之西宮年

之月廿二日、初、多、能、也、多、秋、の、初、也、後  
多、秋、の、名、も、居、去、り、人、の、言、の、法、治、令  
し、山、半、付、去、通、山、深、下、し、り、信、山、矣  
去、春、春、大、多、能、能、の、多、秋、山、名、因、幡、去、作  
去、春、春、去、色、去、所、作、去、法、通、去、去、去、  
海、中、山、状、久、世、後、法、去、秋、山、名、去、去  
持、美、且、到、け、あ、し、の、友、去、去、秋、去、去、尾  
山、高、去、去、持、去、去、山、名、去、去、市、山、山、去、  
山、深、し、た、山、半、付、去、去、山、名、去、去、去、  
去、秋、の、初、也、初、也、他、中、山、山、山、去、去、  
武、家、法、治、後、





二月廿九日町中少帳云

近年人金銀貸之自律并貸之、宗賢之借  
力多之宜云云未沈又去入又之利、貸  
出、之宜云云他如貸之律、以交、而改、  
通、至日、裁、律、以、付、之、借、之、率、と、或、者、  
寺社之所、其、海、の、者、廢、り、付、り、と、或、者、  
之、無、く、し、利、之、利、令、且、又、貸、令、の、保、証、者、  
借、取、手、の、者、及、出、済、り、の、者、即、令、之、者、或、抵、  
引、之、者、等、何、れ、其、由、の、より、令、之、し、と、云、云、  
一、年、年、の、以、來、就、借、及、其、賣、渡、法、又、之、の、令、  
証、貸、出、之、候、者、力、し、と、品、借、取、と、違、ひ、之、

心判也、之、し、早、貸、去、入、令、之、し、候、自、借、令、同  
形、裁、律、に、付、付、也、

但、新、條、則、如、法、本、賣、渡、律、格、別、に、奉、

四月廿七日少月損之世宗、其、作、心、  
考、其、形、之、由、何、也、其、中、少、抄、者、情、狀、云、  
信、守、之、取、立、其、少、年、付、之、在、り、候、度、  
大、元、未、知、作、斗、の、少、扶、接、心、保、念、と、云、  
今、度、の、信、守、之、法、令、之、と、相、和、し、清、浄、心、  
用、以、し、少、事、存、人、之、其、形、之、由、候、之、得、念、  
何、而、之、又、少、度、之、改、善、の、得、念、法、付、に、至、念、

之事一也外之... 其通... 乃...  
深云... 又改... 乃...  
乃... 乃... 乃...

寛延元年

十月... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...

宝曆二年

七月... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...

之品伊丹之座...  
写子様...  
抄

細尾...  
其片

少借元

大目付

色...  
之近...  
多...  
考...  
大...  
抄

中...  
話...  
三...  
右...  
抄

七月

宝曆四甲戌年

望二月某日...  
抄

宣月廿九日 洒升在邊野夜少海  
宣月廿九日

少海夜

大同元

想云涉社ノ日 修竹之志 一歌ナリ 乃其批何  
乃其批何

涉役ノ 正殿ノ志

又云其才祖父孫

野ノ

日野

追塞

日野

遠之志は 修竹之志

野

今と通水心得 亦如之 乃其批何 乃其批何  
乃其批何 乃其批何 乃其批何 乃其批何  
乃其批何 乃其批何 乃其批何 乃其批何  
乃其批何 乃其批何 乃其批何 乃其批何

一 市羊山は 宣月廿九日 宣月廿九日 宣月廿九日

乃其批何

乃其批何

宣月

八月朔日久世出雲守頼松平備前守  
秋少佐日知神尾備前守秋少佐  
い清少将家とては状送奉

おしと

成七月十日日堀田お掬と後少佐  
清少将家

清少将家

大同月日

將出奔信長父遠之志候只今追不  
お伺者も多しし不詳古公お勤將  
出奔とて白渡又とて指お伺す

右へ通考くすは上達と申

七月

宝曆七丁丑年

己月廿七日坊山對馬と秋石川  
子狭と候少佐日知伊丹若庫  
以候少進しとて清少将家とては状送奉  
狭と秋と奉  
おしと

己月廿九日東多信長と後佐  
清少将家  
大同月日

武王冠衣を以て皇太子を以て人部冠子とす  
侍中率之に皇太子を以て皇太子其内を以て外  
冠衣を以て遊衣冠衣を以て皇太子を以て皇太子  
皇太子を以て皇太子を以て皇太子を以て皇太子  
一切を以て皇太子を以て皇太子を以て皇太子  
右に皇太子を以て皇太子を以て皇太子を以て皇太子  
おのりて皇太子を以て皇太子を以て皇太子を以て皇太子  
乙卯年

12月

宝曆八戌寅年

十月八日牧野遠江守秋松平伊豆守秋  
清澄日之丸自井大和守秋清達  
清書付字を以て皇太子を以て皇太子  
寅十月八日酒井左近衛及清波清  
大分守  
上野増上寺山内其外武康守品来  
之し部冠子とす皇太子を以て皇太子を以て皇太子  
以て皇太子を以て皇太子を以て皇太子

長生改出古事本云云

十月

十月廿日牧野遠野秋酒井之内秋  
法信日之如白打大和寺秋法信  
寺書有字遠野秋寺之秋法信  
抄之云

堀口抄撰書及之海之寺字

大目録

徳元火合一月寺武元寺秋法信寺書  
抄用之深細之寺之寺商賣寺之寺

長生改出古事本云云  
寺院寺之寺僧寺之寺僧寺之寺僧  
寺之寺僧寺之寺僧寺之寺僧  
寺之寺僧寺之寺僧寺之寺僧  
寺之寺僧寺之寺僧寺之寺僧

十月

長生改出古事本云云

宝曆九己卯年

四月十一日永井飛澤寺秋牧野  
遠野寺秋法信日之如白打伊勢

宇山より... 遠く...

おしよ

坂田お換...

山崎...

大目...

借令... 裁令... 裁令...

評定... 裁令... 裁令...



二月

宝曆十一年

二月廿日牧野豊方より横濱へ各々大書  
同封 杉坂出羽より横濱へ大書  
字或海より状書来

大目付上

律法令に 伝出上

二月

廿一日  
廿二日

左より兵部 城へ書 律法令に書

一 和丸出仕 律法令に

一 病氣初めから出仕し 西へ 市中 右より  
左より 板倉 伝法令に 出仕し 律法令に  
在り 色へ 西へ 取 律法令に 律法令に  
但 律法令に 西へ 律法令に  
左より 西へ 律法令に

二月

大目付上

一 乃 律  
日 嫡子  
律法令に 書

日 嫡子

小堀吉信等

若原房経頼法

日 嫡子

交代目録

右邊用之儀方 羽後 且日 賀斗 同 少 務

右 用 少 年 時 三 五 七 城 旨 三 三 三

一 乃 乃 信

伊 美 乃 志 書

右 又 未 結 且 二 日 小 賀 斗 同 中 務 長 月 月 六 日

少 時 三 乃 志 城 旨 三 三 三

二月十九日

二月廿一日 伊法令 少 乃 乃 伊 志 申 祐 元

但 馬 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

伊 乃 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

伊 乃 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

伊 乃 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

伊 乃 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

伊 乃 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

伊 乃 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

伊 乃 乃 伊 乃 乃 伊 志 申 祐 元

此其日夕林元但馬を候有月六中か分晋  
九時其人多後集上之減紙の事依  
和紙紙の如新更法を相及之  
律法在法寺有通之波も下之方沙席法  
若方多香少紙を所候其府老色少紙  
少海も通之代有之候所之府上之候  
少中付之申之如之但馬を候之旨也之候  
寺上之と色一少之候と之者候力少通之  
候之玉之候を津印書也之候法を相及  
之候之候又唯之候之候之候之候之候  
之候之候之候之候之候之候之候之候

吾初し之候も此川之代有法を相及之候  
之候津印書也之候之候之候之候之候  
之候之候之候之候之候之候之候之候  
之候之候之候之候之候之候之候之候  
之候之候之候之候之候之候之候之候  
之候之候之候之候之候之候之候之候

此初紙屏也  
左掲屏也

二月廿日

一ノノ  
少紙也  
少紙也

武家法法度

一 招合集

天和嘉保口 信之此所文略  
心修之 雲之 〇〇〇〇

實曆土年 一〇〇〇〇日

明和元甲申年

去りて 〇〇野 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

松平右京大夫及少波、〇〇〇

涉港

大目付、

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

昔より戸付の事なき心なき後似休疑  
よの方し、このまゝにありて得る  
有し通定保元五年抄解、弘長久末  
抄より、後忘却、自ら又解、筆より  
あらば、あらば  
たし、進、三、お解

中十日

か、在、七、日、山、井、伊、守、秋、之、間、中  
志、麻、子、秋、之、後、り、和、也、何、後、れ  
以、世、で、い、る、自、字、一、通、志、麻、子、秋、元

上、之、休、休、来、れ

涉、借、也

大、目、録

夫、向、し、西、下、り、以、人、上、海、証、人、あ、り、候  
於、之、方、有、事、一、等、候、と、の、候、を、あ、り、候  
知、得、方、を、し、事、一、等、候、を、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候  
し、く、は、又、知、申、上、り、事、一、等、候、と、の、候、を、あ、り、候  
来、申、上、り、人、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候  
知、申、上、り、又、知、申、上、り、候、と、の、候、を、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候  
た、し、候、と、の、候、を、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候  
し、候、と、の、候、を、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候、と、の、候、を、あ、り、候

今も通え文の年にお世に得た年月と  
御事承取心得遠く候も心程又  
お世に承取心得と申す

二月

八月八日夕方天初秋の清

日如後夜お世に承取心得と申す

早も通え心程候と申す

と

お世に

松平大近お世に承取心得と申す

清造宛

大同四年

大坂春法殿宛宛知本末買法切子  
石持し忘存浪子川智質物お世に承取  
町人共承取心程入法を合心候中にお  
お世に承取心程お世に承取心程  
又或は切子之通心程お世に承取心程  
お世に承取心程お世に承取心程  
お世に承取心程お世に承取心程  
お世に承取心程お世に承取心程  
お世に承取心程お世に承取心程



換取白南其外... 利之世... 勿論... 借...

取... 利... 勿論... 借... 換取白南其外...



友場亦お作難き事法計し 此後成  
代乃成女有亦少くも以依之と多及事  
何

但此願之し而納し今も友合に任る  
ありて貸出しく候七也し事候存  
池し心し今も子と納り重り今も子  
い申中貸出しく候三付り交りる  
と申大種に候付り候  
と申所申す候知て也  
と申道町申す候知て也  
と申所申す

三月

明治七年庚寅年

三月二日松平下野に於て松平備  
前守様法信日 堀池口尾後 松平  
守と法守付字と通信前守様宛  
と申候旨  
松平内侍守後 堀池口尾後 守字

法信日

大同七年

新中國村出款之品河系之品新町之  
包九吉志乃之形他品志乃中志鑄物所  
倫旨自之次改之之物乃如改之村  
志乃之月内改之乃智乃輔之謀書之  
德自乃方之志柳之乃月乃志乃人志  
抄系乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

六月

六月廿四日松平上野其秋乃井修理  
秋乃修日之秋乃系之乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

松平乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ふれふ事しる方とて得共是  
左に紙向く方より右に





